

# 「白い石の埋まるところで」

—初稿—

2026/2/12  
雨森 れに

〈人物表〉

根岸<sup>ねぎし</sup> ゆり

(41) 専業主婦

根岸<sup>ねぎし</sup> 政信<sup>まさのぶ</sup>

(55) ゆりの夫。社長

村長

(72) 集落の村長

1. 根岸宅・玄関・外（昼）

高級住宅街にある、豪華な一軒家。玄関先には青いビニールシートが敷かれ、土が盛られている。端には空のプランターがいくつか重なっている。根岸ゆり（41）、土の入ったプランターを持ってくる。

土の山にプランターをひっくり返す。

園芸用スコップで土を均す。

白い底石を見つけては隅に寄せる。

2. 根岸宅・玄関・外（夜）

仕事帰りの根岸政信（50）、門扉を開ける。

底石が落ちているのを見つける。

更に土を見つけ、嫌そうな顔。

足早に家の中へ。

3. 根岸宅・リビング（夜）

ゆり、真剣な様子で本を読んでいる。生活習慣病に關しての本である。

政信、リビングのドアを開けるなり、

政信 「おい。あの土、やめろよ」

ゆり、とっさに本を隠す。

ゆり 「おかえりなさい」

政信 「家の中まで土臭い気がするわ」

ゆり 「そう？ 新しい土買うなんて勿体ないよ。捨てるのもお金かかるしさ」

政信 「何。稼ぎが少ないって？」

ゆり、一瞬顔を強張らせるが、すぐに笑顔。

ゆり 「ごめん。言い方悪かったね」

政信 「古いのを捨てて、新しいの買う。それだけのことだろ」

ゆり 「ホントにそうだよね」

政信、鼻を鳴らす。

政信 「お前って、俺をイラつかせるのだけはうまいよな」  
リビングから出ていこうとする。

ゆり 「ご飯は？」

政信 「先にシャワー」

政信、こめかみを押さえる。

政信 「なんか、頭痛え——」

その場でしゃがみ込む。

ゆり、その場から動かない。政信を見下ろしている。

政信、苦痛に顔を歪め、

政信 「助け……」

気を失う。

ゆり、本を抱きしめる。

嬉しそうに微笑みながら。

#### 4. 管理人宅・外観（昼）

山の中にある小さな集落。その端にある、ログハウ  
ス調の家。大きな庭がある。

駐車場には村長（72）が待機している。

福祉車両が到着する。

ゆり、運転席から出てくる。

同時にハッチが開き、車椅子が見える。

乗っているのは政信である。

ゆり、車椅子を下ろす。

村長 「よくいらっしやいました。お疲れでしょう？」

ゆり 「それが全然。きっと楽しみが勝ったんだと思います」

ゆり、政信の肩を摩る。

政信は口を歪ませ、言葉にならない唸り声をあげる。

ゆり 「この人のためにもなりますよね」

村長 「若いのに卒中なんてねえ……」

ゆり 「健康に無関心な人でしたから。でも、いい空気に触れれ

ば、よくなるはずですよ」

村長、頷いて、

村長 「歓迎しますよ」

ゆり 「一週間程度の管理人ですが、よろしく願います」

ゆり、深々と頭を下げる。

政信の唸り声。

5. 管理人宅・リビング(昼)

暖炉のある広いリビング。根岸夫妻と村長がテーブルを囲んでいる。

ゆり 「山の管理はできる範囲でよろしいんですか？」

村長 「見回るだけでも。なにしろ老人しかいないものでね。人手が足りないんですわ」

ゆり 「みなさん機械に頼ってる感じがしますもんね」

窓から村の様子が見える。

道路はすべて舗装されており、最新の農耕機械が動いている。

しかし、村人らは全員高齢者である。

村長 「だから直接見てくれる人がいると助かってわけです。

全部自由にしてもらって大丈夫ですよ。誰も文句言いませんから」

ゆり 「こんなこと言うのもアレなんですけど、本当にあの金額でよかったですか？」

村長、人のよさそうな笑みを浮かべる。

村長 「この村には充分ですよ。寄付と管理、どちらもありがたいことです」

ゆり 「よかったです。わたし、本当に疲れてしまってます……」

政信の唸り声。

ゆり、政信のよだれを拭く。

村長 「そうですね。何かあればいつでも連絡してきてくださいよ」

ゆり、静かに喜びを噛み締める。

6. 管理人宅・リビング(夕)

根岸夫婦、テラスで夕暮れを眺めている。

ゆり、政信の口にストローボトルを近づける。

政信、唸りつつ抵抗を見せる。

ゆり 「あなたって、私をイラつかせるのだけはうまいよね」

ゆり、政信の口にストローを突っ込む。

鼻をつまみ、ボトルを押す。

政信、むせながらも嘔下する。

## 7. 管理人宅・寝室（夜）

政信、ぐっすりと寝ている。

ゆり、洗面器をサイドテーブルに置く。

政信の顔に耳を近づけ、寝息を確認する。

次に体を揺らす。

反応はない。

洗面器からタオルを取り出す。ゆるく絞り、政信の

顔へかける。

政信、息ができず起きる。

自由のきかない体を必死にバタつかせる。

ゆり、政信に覆いかぶさり、動きを封じる。

ゆり 「大丈夫。大丈夫。もうすぐ終わるから」

政信、苦しそうな唸り声。

声は徐々に小さくなり、体の動きが弱まる。

ゆり 「古いのを捨てるだけ。お金ならあるんだし」

政信、動かなくなる。

ゆり、一層強く抱き締める。

ゆり 「いいものしてあげる」

## 8. 管理人宅・リビング（朝）

部屋全体がビニールシートに覆われている。

ゆりはレインコートを着て、包丁を握っている。

足元の死体を見下ろす。

チャイム音。

インターホンのディスプレイには村長の姿。

ゆり、玄関へ向かう。

## 9. 管理人宅・玄関（朝）

ゆり、ドアを開ける。

村長 「おはようございます。あれ、レインコートですか？」

ゆり 「主人の汚れ対策に……」

村長、怪訝そうな顔。

村長 「ご主人が？」  
ゆり 「昨日の夜、ちょっと」  
村長 「あがらせてもらいますよ」  
ゆり 「えっちょっと！」  
村長、強引に室内へ。

10. 管理人宅・リビング（朝）

村長、リビングの扉を開け、後ずさり。  
背後にいるゆりを見る。  
ゆり、じりりと近づく。  
ゆり 「殺したんです」

管理人、額を押さえる。  
もう一度、死体を見る。  
しばしの静寂が流れる。  
村長、ぼそりと、

村長 「最速記録更新ですよ」  
ゆり、にっこりと微笑む。

村長 「いつでも連絡くださいって言ったじゃないですか」  
ゆり 「夜遅かったもので。気が引けちゃって」  
村長 「解体も自分でやろうとするなんて無謀ですよ。村のもん  
に道具持つてくるよう言いますわ」  
村長、電話をかける。

ゆり、死体に包丁を振り上げる。  
村長、電話をしながら驚いた顔。

11. 管理人宅・外観（夕）

ログハウスの煙突から黒い煙があがっている。

12. 管理人宅・駐車場（夕）

軽トラが数台停まっている。  
村人らが粉碎機を持ち込み、操作している。  
粉碎機で作られた赤い泥は、小型トラクターで山へ。  
山の麓では耕運機を持つ村人が待機している。

13. 管理人宅・庭(夕)

ゆり、村長と庭を耕している。

ゆり 「いいものになってくれればいいんですけど」

村長 「毎年綺麗な花園になっていますよ。だから保証します」

ゆり 「歴史が違いますもんね」

ゆり、手を止める。

土の中に人骨の欠片が混ざっている。まるで底石の  
ように。

ゆりの唇が弓なりになる。

ゆり 「この村に感謝します。もう少し寄付してもいいですか？」

村長、満足そうな笑み。

村長 「みんな、喜びます」

おわり